

平成25年第2回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成25年2月12日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成25年2月12日	開会 1時30分 閉会 2時50分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊藤 恒子 委員長職務 代理者 鮎川志津子 委 員 高木 裕	委 員 宮本 誠 教 育 長 津幡 道夫	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 尾上 明彦 生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 天野 文隆 庶務課長 関 次郎 学務課長 前島 賢 学務課長補佐 河田 京子 指導室長 河合 雅彦 指導室長補佐 神田 恭司	指導主事 高橋 良友 指導主事 平田 勇治 国体推進担当課長 尾崎 充男 図書館長 田中 肇 公民館長 大関 勝広 庶務課庶務係長 倉澤 亮	
調 製	佐藤 菜穂子		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議 案 第 2 号	小金井市教育委員会の基本方針及び平成 2 5 年度教育施策（基本方針 4）について
第 3	議 案 第 3 号	平成 2 5 年度特別支援学級使用教科用図書について
第 4	協 議 第 1 号	中学校特別支援学級の名称について
第 5	報 告 事 項	1 小金井市学校給食の指針について 2 小金井市教育委員会児童・生徒表彰等について 3 小金井市立小・中学校連合作品展について 4 平成 2 4 年度東京都教育委員会職員表彰について 5 第 2 5 回多摩郷土誌フェアについて 6 第 9 回野川駅伝について 7 スポーツ祭東京 2 0 1 3 について 8 図書館の特別休館について 9 その他 1 0 今後の日程
第 6	議 案 第 4 号	平成 2 5 年 4 月 1 日付け校長・副校長の人事異動に関する内申について

伊藤委員長

皆様、こんにちは。

ただいまから平成25年第2回小金井市教育委員会定例会を開会する。よろしくお願いいたします。

日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、鮎川委員と宮本委員にいたします。よろしくお願いいたします。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

伊藤委員長

次に、日程第2、議案第2号、小金井市教育委員会の基本方針及び平成25年度教育施策（基本方針4）についてを議題とする。

提案理由のご説明をいたします。

津幡教育長

提案理由についてご説明する。

小金井市教育委員会の基本方針及び平成25年度教育施策（基本方針4）を定めるため、本案を提出するものである。

細部については担当からご説明するので、よろしくご審議の上、ご議決賜るようお願い申し上げます。

天野生涯
学習課長

それでは、小金井市教育委員会の基本方針及び平成25年度教育施策（基本方針4）について、変更点について説明させていただきたいと思う。

まず、「議案第2号資料」の、新旧対照表をごらんいただきたいと思う。

変更点の1点目、(1)生涯学習の推進の②である。こちらは内容としての変更はないが、文章の中で重複するもの等があり、読みづらい形になっていたのを、それを読みやすく整理して、このような形に改めている。

2点目、(3)スポーツ・レクリエーション活動の推進の⑤である。スポーツ祭東京2013について、平成25年度には本大会を実施するため、このように改めている。

続いて、(4)文化財の保存と啓発活動の推進の②についてである。「小金井市史」の編さんについては、市史編さん大綱及び市史編さん年次計画に基づき、平成22年度から編さん活動に取り組んでい

るところである。平成25年度以降、順次、資料編・通史編を刊行していく計画となっていることから、このように改めている。

同じく、(4)文化財の保存と啓発活動の推進、④についてである。名勝小金井（サクラ）復活事業については、玉川上水・小金井桜整備活用実施計画に基づき進めているところである。平成25年度以降、人道橋整備に具体的に着手するという計画になっていることから、人道橋の架け替えについて追加したところである。

続いて、裏面をごらんいただいて、(5)の公民館の充実、⑦についてである。(仮称)貫井北町地域センター公民館貫井北分館開設に向けた準備等について、現在の進捗状況を踏まえ、新たに項目立てを行っている。

続いて、(6)図書館の充実の①についてである。新しく改訂する「小金井市立図書館運営方針」で示している図書館の目的との整合をとり、「なんでも」という文言を、「だれでも」の次に加えている。

同じく、(6)図書館の充実の②、「小金井市立図書館運営方針」については、現在、改訂に向けて作業を進めているところであり、平成25年度からは新しい運営方針に基づき図書館施策を推進していくことから、このように改めている。

同じく、(6)図書館の充実の③、(仮称)貫井北町地域センター図書館貫井北分室開設に向けた準備等について、現在の進捗状況を踏まえ、このように改めている。こちらは先ほどの公民館のところの⑦と整合をとったものである。

続いて、(6)図書館の充実の④である。子どもの読書活動の推進については、「第2次小金井市子ども読書活動推進計画」に基づき行っているところであるが、本計画は平成25年度で計画期間が終了することから、このように改めている。

(6)図書館の充実、⑤についてである。図書館のICT化推進については、平成24年度の教育施策説明において、ご指摘いただいたご意見を踏まえ、新たに項目立てを行っている。

続いて、(7)社会教育施設の整備の④についてである。(仮称)貫井北町地域センターの建設工事については、平成24年度から平成25年度にかけて建設工事を実施する計画となっていることから、このように改めたところである。

最後に、同じく社会教育施設の整備の⑤についてである。図書館本館の耐震診断については実施済みのため、削除している。また、

これに伴い、平成24年度に⑥だったものを、⑤に繰り上げている。
変更点については以上である。

伊藤委員長 説明が終わった。
ご質問、ご意見はあるか。

鮎川委員長 (仮称) 貫井北町地域センターの開設に向けて進んでいるという
職務代理者 ことで、大変楽しみにしている。

(6) 図書館の充実、①の「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」
に加えて「なんでも」が増えた。これは、具体的にどのようなもの
なのか、どのような協議があったのか、教えていただけるか。

田中図書館長 図書館のほうでは、標語というか、「いつでも」、「どこでも」、「だ
れでも」、そして、要求されるものは何でもご提供するというこ
とがあるので、この文言としては、使う場合と使わない場合があるの
だが、今回検討中の図書館運営方針の中には、「なんでも」という
ような4つ目が入ったので、その整合性もあって、これを記入した。

鮎川委員長 いろいろなサービスをしていただけるという意味合いであるか。
職務代理者

田中図書館長 はい。

鮎川委員長 わかった。ありがとう。
職務代理者

宮本委員 図書館のことだが、耐震診断はやられたわけですね。この診断に
基いた、何かご意見や整備の項目で施策など、具体的にはないのか。

田中図書館長 耐震診断のほうも実施して、それで、耐震補強は必要ないとい
うことが出ているのだが、ただ、図書館本館は全体が老朽化している
ので、そういった面においては、整備していく必要はあるだろうと
思っている。今回、ここでは記述はしていないが、(7)の社会教
育施設の整備というところで考えて、含めている。

宮本委員 ありがとう。

伊藤委員長 図書館も（７）のところに入るという考え方ということである。
わかった。

ほかにあるか。よろしいか。

それでは、このように承認することにするが、よろしいか。

（委員一同異議なしの声）

伊藤委員長 異議なしと認め、承認することにする。

次に、日程第３、議案第３号、平成２５年度特別支援学級使用教科用図書についてを議題とさせていただきます。

ご説明をお願いします。

津幡教育長 提案理由についてご説明する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２３条第６号の規定に基づき、平成２５年度小金井市立小金井第一中学校特別支援学級使用教科用図書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当からご説明するので、よろしくご審議の上、ご議決賜るようお願い申し上げます。

河合指導室長 市立中学校特別支援学級で使用教科用図書があつて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２３条第６号に基づき、小金井市教育委員会が毎年採択することとなっている。

また、特別支援学級においては、学校教育法附則第９条により、文部科学省検定済み教科用図書または文部科学省著作教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるとしている。

小金井第一中学校に特別支援学級、知的障害学級及び自閉症・情緒障害学級を新設するに当たり、校長を委員長とした調査研究委員会で、生徒の障害の種類、程度、能力とそれにふさわしい内容であるかを調査研究し、このたび、案として提出させていただいた。採択をよろしくをお願いします。

説明は以上である。

伊藤委員長

ご説明が終わった。

最初に、2つあるので、第一中学校の特別支援学級使用教科用図書について、ご質問、ご意見をお受けする。

鮎川委員長
職務代理者

小金井第二中学校にも知的障害学級があるが、こちらの特別支援学級使用教科書との違いはあるか。

神田指導
室長補佐

ただいまご質問があった知的障害学級の使用教科用図書については、第二中学校6組の採択した教科用図書と同じである。

鮎川委員長
職務代理者

二中の6組と同じことについて理由はあるのか。

神田指導
室長補佐

特別支援学級では、児童・生徒の実態に応じて教科書を使用するということである。

もし、一中に今回新設されなければ、二中6組のところという事になっていたはずである。その生徒の障害などで、状況に応じて調査研究をしていただき、その結果である。

鮎川委員長
職務代理者

わかった。ありがとう。

伊藤委員長

ほかにあるか。

宮本委員

今のご説明から、生徒さんの状況を調査して、それに応じて教科本を選択して、中学校間で差がないと理解してよろしいのか。

神田指導
室長補佐

ご指摘のとおりである。障害など生徒の状況に応じて、教科書を選択している。

以上である。

伊藤委員長

その他あるか。よろしいか。

もう中学生には必要ないのか、地図のところは空欄になっている

が、これはいかがか。

神田指導
室長補佐 資料の地図のところ为空欄になっているのは、社会科について、一般図書を選択している。一般図書を選択した場合には、地図の配付はない。

以上である。

伊藤委員長 わかった。ありがとう。
ほかにあるか。
それでは、次に、自閉症・情緒障害学級について、ご質問、ご意見等あるか。

高木委員 自閉症・情緒障害学級については、全種目、全学年において小金井市立中学校使用教科用図書となっているが、これについては、理由はいかがか。

神田指導
室長補佐 自閉症・情緒障害学級では、知的発達の遅れは伴わない自閉症の生徒が在籍をしているということから、使用する教科書については、通常の学級の教科用図書を使用することが、生徒の実態に応じていくということになる。

以上である。

伊藤委員長 よろしいか。その他にあるか。

鮎川委員長 今のご説明にあった、自閉症・情緒障害学級では通常の学級と同じ
職務代理者 教科書を使用する。それは、ご指導は個に応じたご指導をしてくださるという理解でよいか。

神田指導
室長補佐 ご指摘のとおりである。少人数で、子どもの実態に応じて、通常の学級と同じ教科書を使いながら、その生徒の実態に応じた指導をしていくということになる。

鮎川委員長
職務代理者 わかった。ありがとう。

伊藤委員長 よろしいか。ないか。
それでは、今の質疑を終了させていただき、お諮りする。
議案第3号、平成25年度特別支援学級使用教科用図書については、原案のとおり可決することにご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

伊藤委員長 異議なしと認め、本件は原案のとおり可決することと決定した。
次に、日程第4、協議第1号、中学校特別支援学級の名称についてを議題とする。
提案理由についてご説明をお願いします。

津幡教育長 特別な支援を必要とする生徒への教育を一層充実させるため、中学校の特別支援学級の整備を進め、平成25年4月に新たに特別支援学級の開級を予定しているため、その名称について協議を求めるものである。
細部については担当からご説明するので、よろしくご審議の上、ご協議賜るようお願い申し上げます。

神田指導室長補佐 平成25年4月に小金井第一中学校及び緑中学校に整備する特別支援学級の名称について、ご協議をお願いします。

特別支援学級の名称として、小金井第一中学校及び緑中学校から、それぞれ整備する学級ごとに3つの候補を上げていただいた。「協議第1号」の資料をごらんいただきたい。

この候補は、小金井第一中学校及び緑中学校に整備する特別支援学級の名称案について、それぞれの学校で検討をお願いし、協議を重ね、そして、それぞれの校長から名称案の提案をいただいたものである。通称名になるが、それぞれ3つの候補からご協議をいただき、それぞれの特別支援学級の名称を決めていただきたいと考えている。

初めに、小金井第一中学校の知的障害学級、固定学級である。

第一候補は「F組」である。その理由としては、通常の学級がA～E組になっている。それに続いて候補にしたものである。

第二候補「G組」及び第三候補「H組」である。この理由について

ては、第一候補同様に、通常の学級（A～E組）から、アルファベットを、学級数が増えた場合のことを考えて、1つ、2つとあけて候補としたものである。

次に、第一中学校の自閉症・情緒障害学級、固定学級である。

第一候補は「支援学級」である。理由は、特別な支援をする学級だからである。

第二候補は「支援教室」である。理由については、特別な支援をする教室があるからである。

第三候補は、「特別支援教室」である。理由については、同様に特別な支援を行う教室があるからである。

最後に、緑中学校の情緒障害等通級指導学級である。

第一候補は、「I組」である。理由については、現在の第一中学校の通級指導学級である「I組」の名称を引き継いでの候補ということである。

第二候補は「K組」である。理由については、小金井のKを示している。

第三候補は「L組」である。理由については、Liberty、自由という意味のLを示している。

説明は以上である。ご協議、よろしく願います。

伊藤委員長

ありがとう。

3つの学級についてお話をするわけだが、まず、(1)知的障害学級（固定級）のほうからお話し合いを進めてまいりたいと思うが、よろしいか。一緒でもいいというなら一緒でいいのだが、一つずつ決めていきたいと思う。

では、まず1番について、ご意見を願います。

鮎川委員長
職務代理者

現在、通常学級がA～E組までであるということで、クラスが増えた時のことを考えると、少しあけたほうがいいという気もする。

以前は二中さんで5組さんと呼んでいたものが、通常学級数が増えたことにより、6組さんと変わってしまったこともあるので、少し心配ではある。ただ、一中さんはずっと4クラスで今の1年生が珍しく5クラスになったような状況である。

そのことを考え、E組がマックスというご判断が学校にあったとすると、学校が第一とお選びになったF組さんがよいと思う。

学級数が増える心配はあるが、第一候補でよいと思った。

伊藤委員長 学校のご希望に沿ってということであるか。

鮎川委員長
職務代理者 はい。

伊藤委員長 ほかにご意見はあるか。

高木委員 基本的には、学校の現場のことであるので、校長先生はじめ、ご意見が尊重されるべきだと思うが、やっぱり混乱をしないこととか違和感のないことというのは大事だと思う。

今、鮎川先生からお話があったように、当面大丈夫かなと思うのだが、少し長い目で見ると、それはわからないので、それも切りがないのだけれども、そういう意味では少し、一クラス増えて混乱しないようにという意味では、Fの次のGという第二候補のほうがいいのかなどは思う。

伊藤委員長 ほかにはいかがか。

宮本委員 第一中学校さんで決められた候補であるので、それなりの理由から、F組、G組、H組があると思うが、高木委員がおっしゃったように、将来一学級が何人クラスになって、何クラスになるのかという予測をして、その上で、障害学級の番号を振っておいたほうが、将来、混乱しないであろうという感じはした。

伊藤委員長 ほかはいいか。

私も意見を言っていていいか。FでもGでも、どちらでも、呼びいいのはどちらかなと考えてみると、Fのほうがいいのか。GというのはJと紛らわしいような気もするのだが、アニメに、多田かおるさんがつくった『イタズラなKiss』というのがあるのだが、そのアニメの中で、「F組」というのは劣等生のいるクラスというような設定があるので、「F組」というのはややもするとそういう、そのことを言う者がいては困るかなという思いがして、私は、「F組」のほうが言い方では大変言いやすいが、「G組」を推したいなと思

う、個人的には。

でも、学校がFを希望していらっしゃるということは、そういうことも全て考慮して、Fを選ばれたのかなという思いもするけれども、鮎川さん、いかがか。

鮎川委員長
職務代理者

先ほど、第一候補の「F組」が良いと申し上げたが、今、委員長先生がおっしゃったようなお話を全然知らなかったので、「F組」がいいと思った。先ほど申し上げたように、今あるE組のすぐ後ろのFということには心配も感じていたので、強く第一候補というわけではなく、皆様の「G組」に賛成する。

伊藤委員長

これはここで決めるのか。

神田指導
室長補佐

ここで協議をしていただき、決定をしていただきたいというふう
に考えている。

伊藤委員長

学校には、これでいかがかとお返しするのではなくて、ここで決めるのか。

神田指導
室長補佐

はい。ここで、よろしく願います。

伊藤委員長

学校がこれを上げてきた理由というのは、単に連続性のことか。

神田指導
室長補佐

先ほども説明したが、「F組」というのは、通常の学級のA～E組
に続いて、「F組」を第一候補として上げてきたということである。

高木委員

決定する手続的なところでわからないこともあるので、その前提
での意見であるが、この後の名称も含めて、いろいろ意見が委員会
では出るんだと思う。

そこで、先ほど言ったように、実際に多く活用するのは学校の現場
だと思う。学校現場がいいものが絶対いいとは思うのだが、あえて
ここで意見を求められるのであれば、その意見をもとに、いま一
度学校で検討していただいて、学校で決めていただくということ
で
だめなのか。

それが、教育委員会のということであれば、あるいは時間的なことがあるのであれば、最後のところは委員長先生にご相談いただいて、学校に一回戻した上で、それを、ではこうしましょうという意見を委員長先生に出していただいて、そこで最終決定していただくということを、時間的な制約とか、この委員会、次では間に合わないのであれば、そういうふうにしていただくのがいいのではないかと私は思うが、意見である。

伊藤委員長 そういう制度はないか。

神田指導
室長補佐 学校で決めるということはない。

伊藤委員長 ないということである。わかった。
今、皆さんに決定をしていただくということで、(1)、(2)、また、2の(1)というふうに分けたけれども、一つずつ決定してしまうのか、それとも、今、高木委員がおっしゃったように、ほかのところにも意見があるということなので、一緒に、まず、(1)はちょっと保留、皆さんのご意見をいただいたところで置いておく。
(2)について、自閉症・情緒障害学級（固定級）についてのご意見を承りたいと思うが、いかがか。

高木委員 私は、違和感の部分なのであるが、混乱というよりも、ここは。それで、全て「支援」という言葉が入っていて、現にそれは、一定の支援をしている学級であることは違いないと思うのだが、それは先生方、教育者の側から見ると、そういう明確なことでいいと思うが、実は生徒のほうからすると、支援されている学級であるという話になると思う。
それも事実なんだけれども、それが通常、要するに現場で使われるということには非常に私は違和感を感じる。
ここにはないので、第三候補までにはないものでいいんだとすれば、私は、先ほどの知的障害のほうで、仮にGだとすれば、その次のHというふうにするのが違和感のない決め方なのではないかと思う。

伊藤委員長 ほかにご意見はあるか。

鮎川委員長
職務代理者 学校から出していただいた候補に物申すようで申しわけないが、私も、高木委員と同じように違和感を感じた。

「支援学級」という名称の場合、知的障害学級のほうも特別支援学級なので、「支援学級」と言ったときに、自閉症・情緒障害学級の名称としての支援学級なのか、それとも、知的障害学級を含む一般的な支援学級なのか、「支援教室」にしても、「特別支援教室」にしても、混乱もあるのかなという心配もある。

連合作品展だったか、学校公開の場だったか、忘れてしまったのだが、第二中学校6組さんの作品が飾られているときに、「6組何々」というようなお名前が作品の下に掲示されているのを拝見したことがある。

一中さんで、連合作品展や、学校公開で作品を掲示される時、もしくは作文やレポート等を掲示されるようなとき、知的障害学級のほうは通常学級の続きで、「G組何々」というお名前があって、自閉症・情緒障害学級は、例えば「支援学級何々」という名前でも、クラス名がなくて、名前だけというのも、そのお子様ご自身にも、ごらんになる保護者の方にも、違和感もあるのかという心配もあった。

伊藤委員長 ほかはいかがか。

宮本委員 私も「支援学級」より、アルファベットのほうがいいと思うが、学校側が何でこの名称を選んだかという理由のほうを知りたい。何か理由があるのではないかと思うが。

伊藤委員長 学校は何らかの経緯があって、これを上げられて、よいと思われたんだと思うので、その辺の理由が、なるほどというのが、私たちの知り得ないことがあるなら、知りたいと思った。

特にそういうご説明はなかったわけか。

神田指導
室長補佐 理由については、先ほどご説明をした部分だけしか聞いていない。詳しいご説明等についてはなかった。

伊藤委員長 私の意見であるが、固定学級ということは、朝から夕方まで授業にかかわる子どもたちがそこにいたときに、並びなさいと子どもを呼ぶときに、「支援学級さん、ここに並びなさい」というような言い方で子どもに呼びかけるということであるか。

ほかは「A組さん」、「B組さん」と呼んでいるのに、ここだけ「支援学級さん、並びなさい」というのは、私個人的にもかなり違和感を持つし、ほかの子どもたちにとっても違和感があるのかなと思う。

ただ、出された候補の中は、皆そういう呼び名であるので、ここから選ぶとなると大変迷ってしまうのだが。

では、次に行く。そういう疑問を残して、時間もあるから、緑中学校の通級の情緒障害学級について、I組、K組、L組についてご意見を承りたいと思う。

鮎川委員長
職務代理者 緑中さんに関しては、第一候補の「I組」がよいと思う。
もともと一中さんでI組に通っていた方々にとって、学校が変わるといのは、気持ちの上でも、環境の面でも、大きな違いがあると思うので、今まで呼ばれていたI組さんのままお引越しいというほうが、気持ちが落ちつくと思ひ、第一候補がよいと思う。

伊藤委員長 ご意見いかがか。

高木委員 積極的な意見ではないのだが、今のお話もそうであるし、あと、先ほどの混乱という意味では、緑中さんの実態、現状のクラスということを見ると、混乱することもなさそうであるので、であれば、学校の選んだ「I組」でいいのかなという気はする。

伊藤委員長 よろしいか。
では、これは結論が出たとする。
次、1番の(1)、(2)について、(1)については、先ほど、学校さんは大変、「F組」というものに思いを持って選んでいただけたが、少し余裕を持って、「G組」ということでというふうに結論を出させていただいてよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

伊藤委員長 それでは、こういう結論に至ったことも学校に説明をしていただいて、よろしく願います。

 それでは、(2)の自閉症・情緒障害学級(固定級)についてはいかがするか。

 私どもの意見としては、「支援学級」第一候補、「支援教室」第二候補、「特別支援教室」第三候補ともに、こういう呼び名ではいかがかという意見である。

 ここで決定するとなると、私どもが勝手に、ほかの候補のKやLやHを選ぶわけにもまいらないが、いかがするか、事務局、お答えいただけるとありがたい。ここで選ばなくてはいけないのだと困るのだが。

河合指導室長 今、委員会の声をいただいたので、学校に対して、また改めて提案させていただきます。

伊藤委員長 そうか。では、これは一度学校にお返しいただくということでもよろしいか。

 質疑、ほかはよろしいか。

 それでは、お諮りする。

 協議第1号、中学校特別支援学級の名称については、ただいまの協議の結果を踏まえ、第一中学校知的障害学級は「G組」、自閉症・情緒障害学級については学校差し戻し、緑中学校の情緒障害通級指導学級については「I組」とするが、それでよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

伊藤委員長 それでは、そのように決定させていただきます。

 次に、日程第5、報告事項を議題とする。順次、担当からご説明をお願いします。

 報告事項1、小金井市学校給食の指針についてをお願いします。

河田学務
課長補佐 このたび、「小金井市学校給食の指針」を作成したので、ご報告させていただきます。

 初めに、資料が当日配付となり、大変申しわけなかった。

 平成18年度に制定された基本的指針の法的部分の改訂を含め、

本市の給食について、より市民や保護者にわかりやすく、学校給食のPRも含めたものとなっている。

「安全でおいしく温かい給食」を基本理念に、安全な食材と衛生管理に留意し、手づくりを基本とした自校方式による運営を行っている。

10月1日から10月31日までパブリックコメントを募集したところ、85人、397件のご意見があったので検討させていただいた。

指針は当初、8つの項目、「1 学校給食の目的」から始まり、「2 小金井市の給食」、「3 学校給食の指針」、この中には、献立の指針、食材料の選定、給食調理の指針などが含まれる。「4 衛生管理の指針」、「5 給食環境の整備」、「6 安全性の確保」、「7 環境への配慮」、「8 食育の推進」としていたが、新たに、「9 給食の充実と市民参加」という項目を追加した。

作成に当たっては、学校長の代表、栄養士の代表、調理員の代表で構成される学校給食連絡協議会での意見も聞いている。

今後、よりよい給食を目指して、学校給食の指針として活用していくこととする。

説明については以上である。

伊藤委員長

ありがとう。ご説明いただいたが、ご質問等はあるか。
よろしいか。宮本先生、何かないか。

宮本委員

質問していいか。この中に、食器のことで、前もたしか、強化磁器食器を全校に早く入れてほしいということをお願いしたと思うのだけれども、これは今どうなっているのか。

河田学務
課長補佐

現在は、一小と本町小以外の小・中学校については、そういう食器は、今年度で完備された。

残る2校については、給食室の改築を行わないと導入できない。食器だけではなく、関連する備品なども含めて購入しなければならないので、給食室の改築などが必要になる。

すぐに来年度置けるとかということにはできないが、今後、残る2校も実現を目指していきたいと考えている。

河田学務
課長補佐

そうである。

伊藤委員長

わかった。

ほかによろしいか。

それでは、報告事項2、小金井市教育委員会児童・生徒表彰等についてをお願いします。

高橋指導主事

平成24年度小金井市教育委員会児童・生徒表彰について、ご報告する。

児童・生徒表彰は、他の模範となるような成績または行為のあった児童・生徒を表彰し、健全育成に役立てるとともに、学校教育の一層の充実・向上に資することを目的にしている。

「報告事項2資料」をごらんいただきたい。

各学校長より推薦をしていただき、審査会を経て、本年度児童・生徒表彰は、27の個人及び団体の表彰が決定した。

なお、表彰式は2月14日木曜日、午後4時より小金井市役所第二庁舎801会議室で行う予定である。

報告は以上である。

伊藤委員長

ありがとう。ご意見はあるか。よろしいか。

次、報告事項3、小金井市立小・中学校連合作品展についてをお願いします。

平田指導主事

平成24年度小金井市小・中学校連合作品展について、ご報告する。

平成25年1月24日金曜日から1月28日火曜日まで、小金井市民交流センター1階小ホールと地下1階市民ギャラリーにおいて開催した。

児童・生徒の日ごろの学習成果の発表や鑑賞を通して創造活動の能力を伸ばすとともに、広く市民や保護者に教育活動への理解を深める機会とすることができた。

出展作品数は、東京学芸大学附属小金井小・中学校、小金井特別支援学校の児童・生徒の作品を含めて1,606点である。

小学生の作品は、素材の特徴を生かした表現や立体作品など多彩であった。

中学生の作品は、迫力のあるポスターやテーマに基づき創意工夫された作品など、今年度も各学校独自の作品が顕彰されていた。

小・中学生の趣向を凝らした作品や技能を生かした表現力豊かな作品ばかりであった。

また、来場者の様子であるが、児童・生徒の工夫を凝らした作品に驚かれたり、感心したりしながら熱心に見入っておられた。

報告は以上である。

伊藤委員長

展示等、大変だったと思う。ありがとう。

見学というか、ごらんになって、何かご意見はあるか。

鮎川委員長
職務代理者

昨年までマロンホールで開催されていたが、今年から市民交流センターにかわったということで、特に小学生の部では、天井からつり下げるスペースもたくさんあり、毎年すばらしい作品が多いのだが、今年は特に立体作品の数も多く、大変見応えがあつて、よかつたと思う。

伊藤委員長

私も伺ったのだが、1階と地下に分かれていて、地下への案内がいま一つ不十分だったのかなと。

中で、中学生のはどこかときかれ、間違つて、「2階です」と1人に教えてしまい、追いかけていって、「地下です」と言った。よく見れば表示もあるのだが、よく見ないとわからない表示だったかなという思いがして、もし改めるとすれば、そのあたりかなと思った。

大変すばらしかった。ご苦労さまであった。

次、報告事項4、平成24年度東京都教育委員会職員表彰についてをお願いします。

高橋指導主事

平成24年度東京都教育委員会職員表彰について、報告させていただきます。

この表彰は、東京都教育委員会職員表彰規程に基づき、東京都の教育の発展、学術、文化の振興に貢献し、その功績が顕著で、かつ勤務成績の優秀な職員及びすぐれた教育実践活動・研究活動を行っている学校・グループについて表彰するものである。

小金井市では、小金井第一中学校の小野定則主幹教諭と東中学校の河村直和主幹教諭の2名がこの表彰に推薦された。そして平成25年1月24日木曜日に、東京都教育委員会が主催した表彰式で表彰された。

表彰された2人の功績についてご紹介する。

小金井第一中学校の小野定則主幹教諭は、剣道部の指導を通して生徒の健全育成に多大な成果を上げるなど、部活動指導の充実に努めた。さらに、部活動を通じて、東京都の剣道指導のために積極的に尽力された。

東中学校、河村直和主幹教諭は、吹奏楽部の顧問として11年間にわたり生徒を指導し、吹奏楽コンクール等で優秀な成績をおさめるなど、部活動指導の充実に努めた。さらに、吹奏楽部の活動として、地域のボランティア活動に取り組み、生徒の地域貢献に対する意欲を向上させるなど、生徒の健全育成に尽力された。

このような功績から、小金井第一中学校の小野定則主幹教諭と東中学校の河村直和主幹教諭は、平成24年度東京都教育委員会職員表彰の表彰者として表彰された。

報告は以上である。

伊藤委員長 大変ご努力いただいている結果を評価していただき、ありがたい。

では、報告事項5、第25回多摩郷土誌フェアについてをお願いします。

天野生涯 学習課長 それでは、第25回多摩郷土誌フェアについて、ご報告させていただきます。

こちらは、多摩地区の教育委員会等が発行している郷土誌関係の出版物を一堂に集めて、それを展示することにより多くの人々に紹介し、希望者には有料頒布するということで普及を図るということを目的として、東京都市社会教育課長会文化財部会が主催しているものである。

平成25年1月18日金曜日から平成25年1月20日日曜日までの3日間開催して、参加自治体は29市町村（25市3町1村）である。

小金井市の実績としては、資料にあるとおり、合計で71冊、2

万8,400円分の書籍が売れたというものである。

報告は以上である。

伊藤委員長

ありがとう。

何かあるか。ごらんになったか。

では、次に移る。報告事項6、第9回野川駅伝についてをお願いします。

天野生涯
学習課長

平成25年1月20日に行われた第9回野川駅伝について、ご報告する。

場所については、都立武蔵野公園野川第2調節池ということで、野川沿い及び公園内をコースとして行ったものである。

主催は小金井市、小金井市教育委員会、NPO法人黄金井倶楽部の3者で主催している。

対象は、市内在住・在勤・在学の小学生以上の方で、それぞれ部門を分けて開催をしている。

合計として127チーム、1,064名の方が参加している。

報告は以上である。

伊藤委員長

大分増えた。大変だと思うが、けがなどはなかったのか。

天野生涯
学習課長

特段大きなけがはなく、無事終了した。

伊藤委員長

ご苦労さまであった。

参加して、いかがだったか。

鮎川委員長
職務代理者

お天気にも恵まれて、応援の方々もたくさんいらして、大変よかったと思う。

昨年、閉会式や表彰式に成績発表が間に合わないことがあったが、今年は、関係者の方々がいろいろな改善をしてくださったことにより、閉会式がおくれることなく、きちんと記録なども出していた。どうもありがとう。

伊藤委員長

前日だったか前々日、雪で大変コンディションが悪いところ、よ

り多くのボランティアの方々、子どもたちを含めた方々が、大会を行うのに協力してくださったということで、大変ありがたいなと思った。

あちらからのお話で、この参加費について、特に学校が参加するときに、そのあたりを、教育委員会が主催になったことを踏まえて、もう少し考えてくださらないかというような黄金井倶楽部からの個人的なお話があった。

毎年、そのことについては、私、この場で申し上げているが、一般参加の方についてはもっとたくさんいただいてもいいけれども、例えば東中学校などクラブで、部活などで参加して、たくさん参加していたので、その子どもたちからは、参加費という形をとるのはどうなのかなと。保険として1人100円取るというのは結構だと思うが、参加費として取るのは、教育委員会主催の場合にはいかがかなというような思いをずっと持っている。

そのことについて、学校で、そういうことにも参加できる自由な予算立てができるならよいが、なかなか難しいところもあるので、予算立てや、そういうところに参加できるようなことも考えていただけると大変ありがたいと思う。

ぜひ、生涯学習部で知恵を絞っていただけたらうれしく思う。

天野生涯
学習課長

参考に、検討させていただきたいと思う。

伊藤委員長

申しわけない。

次、報告事項7、スポーツ祭東京2013について、願います。

尾崎国体推進
担当課長

それでは、スポーツ祭東京2013、気運醸成事業についてご報告する。

まず、2月2日土曜日、市総合体育館で開催したスポーツ祭東京2013開催記念ふれあいスポーツ教室についてご報告する。

午前10時から大体育室において、元全日本ヘッドコーチの倉石平先生によるバスケットボール教室を開催した。市内在学の中学生男女63人が参加し、ウォーミングアップをした後、4班に分かれ、基本的な練習方法についてご指導いただいた。

また、地下プールでは、午前11時30分から、ロンドンオリ

ピックに出場した金田和也選手による水泳教室が開催され、58人の小・中学生が参加した。まず、金田選手による模範泳法を披露していただいた。子どもたちは、金田選手のすばらしい泳ぎを見て目を輝かせていた。その後、金田選手による水泳教室を行い、最後には、金田選手と選抜された子どもたちによるレースを行い、大変盛り上がった。

バスケットボール教室終了後、午前12時から大体育室において、パラリンピックに出場した車いす陸上の古畑篤郎選手による、ふれあい教室を23人の参加者により行った。最初は、レースで使用する車いすの概要について説明していただき、その後、古畑選手によるデモンストレーション走行、そして、参加者によるレース用と障害者バスケットボール用の車いすの体験会を行った。

各教室に引き続き、午後1時30分から、小体育室においてスペシャルトークショーを、新体操の三浦莉奈選手を加えて4人の講師陣により開催した。開催に先駆け、総合体育館の体操教室に通う子どもたちとゆりーとによる「ゆりーとダンス」を披露し、国体開催のPR活動を行った。

トークショーでは、初めに各講師陣のプロフィールを紹介し、その後、オリンピック等に出場したときの思い出や楽しかったこと、つらかったことなど、また、ふだん聞けない選手村の話などを聞くことができた。こちらは参加者112名であった。

トークショー終了後、午後3時から、大体育室において三浦選手による新体操教室を開催し、59人の小学生が参加した。こちらもうオーミングアップを十分した後、ボールやフープの基本的な扱い方、バリエーション等をご指導いただいた。最後に、三浦選手によるリボンの演技を披露していただいた。

教室終了後、サイン会のようなことがあり、1時間近く、三浦選手からサインしていただき、子どもたちが大変喜んでいた。

また、このイベントに参加した子どもたちによって、これほどオリンピックやパラリンピックが身近に感じられたことはないと思う。また、ふれあい教室がきっかけとなって、参加した子どもの中から、新たに小金井市出身のオリンピック選手が誕生することを期待したいと思う。

その他、総合体育館1階ロビーにおいて開催している写真展である。こちらは、国民体育大会の様子や、過去のオリンピックの栄光

を再び東京でと題して、2月2日土曜日から2月17日日曜日まで開催している。2月2日の初日だけでも、788人の方にごらんいただいた。

次に、国体PRポスター大募集についてご報告する。

まず、ポスターの募集に当たっては、市報1月1日号及び募集チラシを、各小・中学校の児童・生徒全員と、新聞折り込み約1万9,000枚配布して募集を行った。募集は2月8日金曜日をもって締め切った。

小・中学生からは38点のご応募をいただいた。残念ながら少々少ない状況であるが、応募いただいた作品はどれもが素晴らしい作品ばかりであった。

今後は、作品の審査を行い、2月20日に審査発表をする予定である。応募作品は、2月25日月曜日から2月28日木曜日の4日間、市民交流センターの地下1階市民ギャラリーにおいて展示会を開催する予定である。

続いて、国体開催記念黄金井うまいもん選手権について、簡単にご紹介させていただく。

開催日は2月24日日曜日である。場所はJR武蔵小金井駅南口駅前交通広場と市民交流センター前のコミュニティ広場で行う。小金井の各地域を代表する15軒の店舗から出店し、投票によりご当地グルメのチャンピオンを決定する。

なお、上位に入賞した出店者については、本国体における売店としての出店権利が与えられる。

なお、当日は武蔵小金井駅南口の交通広場を含め、前原坂上交差点までの区間を朝9時から夕方4時まで、一般車両の通行どめを行って、開催する予定である。

また、そのほか、「ゆりーとダンス」を披露、あと、国体応援ブースも出店して、国体のPRも行う予定である。

以上である。

伊藤委員長

大変楽しく、大変だと思うが、ますます浸透していくことを期待する。

何かあるか。よろしいか。

では、2月24日は、おいしいものを食べに伺えばいいわけである。

尾崎国体推進
担当課長 よろしく願います。

伊藤委員長 報告事項 8、図書館の特別休館について、願います。

田中図書館長 それでは、図書館の特別休館について、口頭にてご報告をする。
図書館では、毎年この時期、蔵書資料の的確な把握のため、特別休館により蔵書点検を実施している。
今年は、2月18日月曜日から26日火曜日まで本館、西之台会館図書室、移動図書館車を対象に、3月4日月曜日から7日木曜日まで東分室及び緑分室を対象に、特別休館する。
蔵書点検の結果については、3月以降の教育委員会にてご報告する。
報告については以上である。

伊藤委員長 ありがとう。よろしいか。
報告事項 9、その他に入る。
学校教育部から何かあるか。

尾上学校
教育部長 特にない。

伊藤委員長 生涯学習部からはないか。

西田生涯
学習部長 特にない。

伊藤委員長 報告事項 10、今後の日程について、願います。

倉澤庶務課
庶務係長 教育委員会の今後の日程について、報告する。
第3回教育委員会が3月28日木曜日、午後1時30分から801会議室で開かれる。全委員の出席を願います。
教育委員会臨時会が4月1日月曜日、午後1時30分から801会議室で開かれる。全委員の出席を願います。
第4回教育委員会が4月9日火曜日、午後1時30分から801

会議室で開かれる。全委員の出席をお願いする。

また、日程は前後するが、この表以外のほかの日程について、申しわけないが、口頭でご報告する。

市立中学校の卒業式が3月19日火曜日にとり行われる。全委員の出席をお願いする。

市立小学校の卒業式が3月25日月曜日にとり行われる。全委員の出席をお願いする。

また、市立小学校の入学式が4月8日月曜日にとり行われる。全委員の出席をお願いする。

続いて、市立中学校の入学式が4月9日火曜日にとり行われる。全委員の出席をお願いする。

詳細については、別途、委員の皆様にお知らせする。

報告は以上である。

伊藤委員長

ありがとう。

何かあるか。

3月末日あたりから4月当初についての細かい日程については、またよろしく願いする。

以上で報告事項を終了させていただいてよろしいか。

次に、人事に関する議案がある。

委員長は、本案は、小金井市教育委員会会議規則第10条第1項に規定する事件であると、相当であると判断する。非公開の会議が相当であるので、皆さん、異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

伊藤委員長

ということで、非公開の会議とする。

秘密会を開催するので、準備のため休憩させていただく。

休憩 午後2時44分

再開 午後2時47分

伊藤委員長

再開する。

本日の審議は全て終了した。これをもって平成25年第2回教育委員会定例会を閉会する。どうもありがとう。

閉会 午後 2 時 5 0 分